

道徳科 学習指導案

平成30年6月8日（金）学習指導 I （6の1教室）3年2組 指導者

I 主 題 よい心にまっすぐ

II 考 察

1 主題観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

自分を偽らずに正直に生活しようとする態度

①知識・技能

自分を偽らずに正直に生活することのよさについての理解

②思考力・判断力・表現力等

自分を偽らずに正直に生活することについての自己の考え

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A 主として自分自身に関すること

2 正直，誠実〔第3学年及び第4学年〕

過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「正直，誠実」の内容項目のうち，自分を偽らずに正直に生活することのよさについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

自分を偽らずに正直にとは，良心に従って自分の間違いを素直に認め改めることである。自分の間違いを認めることで反省し，間違いをやり直したり次に生かしたりすることは，人としての成長を促し，明るく健やかな生活を送ることにつながる。もし，間違いをしてしまったとしても，自分を守ろうとして嘘やごまかしをしてしまうことは，自分を偽ることであり，後ろめたさを感じることになる。そのため，自分を偽らずに正直に生活することのよさについての理解を深めることが重要である。

子どもたちは，多くの場合，忘れ物をしたり友達を傷つけてしまったりしたときに，素直に事実を伝えたり謝ったりすることができている。しかし，批判されることを恐れて，教師や友達に指摘されないと素直に事実を伝えたり謝ったりすることができないこともある。このような子どもたちが，自分を偽らずに正直に生活することのよさについて考えることにより，自分を偽らずに正直に生活しようとする態度を養うことができる。

そこで，教材「千ばづる」を使用する。教材の内容及び価値は，以下のとおりである。

主人公のクラスでは，病気の友達のために，早くよくなるようにとお祈りをしながら一人1つ鶴を折り，まとめて贈ろうとしていた。しかし，放課後，主人公は作った鶴を返してほしいと担

任に申し出をする。担任は上手く折れていなくても心配しなくてよいと申し出を断るが、主人公はお祈りをせずにむしゃくしゃして鶴を折ったことを泣きながら訴える。その後、主人公はお祈りをしながら鶴を折り直す、という内容である。

鶴を折る時にお祈りをしていなかったことを正直に伝えた主人公の姿から、子どもたちは自分を偽らずに正直に生活することのよさについての問題意識を高めることができる。また、始めはお祈りをしていなかったことを伝えなかった主人公が、心配しなくてよいと言われたのにも関わらず、正直に伝えた時の気持ちに着目することは、自分を偽らずに正直に生活することのよさに気付くことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「自分に正直に」での、過ちを認めて素直に反省し伝えようとすることの大切さについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、2年「いつでもしょうじきに」において、うそをついたりごまかしたりせずに明るく楽しく生活することの大切さについて考える学習をしてきた。その中で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① よくないことをしてしまった時に、素直な気持ちをもって謝ることで、明るく楽しい気持ちで生活することができるようになることを理解してきている。このような子どもたちが、自分を偽らずに正直に生活することで、明るく健やかに生活できるようになることを理解できるように、主人公が鶴を折る時にお祈りをしなかったことを正直に伝えた理由を問う学習課題を設定する。
- ② よくないことをしてしまった時に、素直な気持ちをもって謝ることについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えることができている。このような子どもたちが、自分を偽らずに正直に生活することについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えられるように、主人公の心のすっきりしている程度を表すことのできるメーターを用意する。
- ③ よくないことをしてしまった時に、素直な気持ちをもって謝ろうとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、自分を偽らずに正直に生活しようとする態度を養えるように、本時の学習に関わって、「学習して納得する考えが見付かったか」「見付かった考えはこれからの自分の役に立ちそうか」という振り返りの視点を提示し、その理由を記述する学習プリントを用意する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい 主人公が鶴を折る時にお祈りをしなかったことを正直に伝えた理由について話し合うことを通して、自分の間違いを認め正直に伝えることで明るく健やかに生活できることに気付き、自分を偽らずに正直に生活しようとする心情を養う。
- 2 準備 場面絵 メーター 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 教材を読み、学習課題「主人公がお祈りをしていないことを正直に言ったのはどう	○本時のねらいとする道徳的価値への方向付けができるように、いつでも正直に伝えることの能

してだろう」をつかむ。

- ・正直に伝えることは、いつでもできているわけではないな。
- ・主人公は、お祈りをしなかったから、鶴を返してほしいと言ったんだね。
- ・自分だったら、怒られるのが嫌で正直に言わないかもしれないな。どうして、主人公は正直に言ったのだろう。

2 学習課題の解決に向けて話し合う。

- ・正直に言うと、心がすっきりするからじゃないかな。
- ・上手に折れなかったことも本当だと思うけど、理由をしっかりと伝えていないから、すっきりしていないかな。お祈りをしていなかったことを言えたときのほうが、すっきりしていたと思うな。
- ・確かに、最初に先生に鶴を返してほしいと言ったときは、あまりすっきりしていなかったかもしれないから、メーターは少ないと思う。理由は、友達が言うように、お祈りをしていなかったことを正直に言っていなかったからだと思うよ。
- ・お祈りをしたかどうかは言わなければわからないけど、お祈りをしていなかったことを正直に言わないままでいたら絶対すっきりしないよ。それに、病気の友達が治って学校に来て、お祈りをしていなかったことを自分は覚えているから、なんだかモヤモヤした気持ちになると思うよ。
- ・悪いことをしたと思ったら正直に言った方がいいね。だって、正直に言うとすっきりするし、悪いことをしてしまったことを気にせず毎日楽しく過ごせると思うよ。

3 これからの自己の生き方への思いや課題について考える。

- ・言わなければ誰にもわからないことでも、正直に言える人になりたいな。そうして、楽しい毎日を送っていききたいな。

否を問いかける。

- 教材「千ばづる」の内容を把握できるように、教材を範読し、登場人物と出来事について問いかける。
- 自分を偽らずに正直に生活することのよさについての問題意識を高められるように、主人公がお祈りをしていないことを正直に伝えたことについての感想や疑問を発表するよう促す。
- 学習課題に対する考えとその根拠を学級全体で共有できるように、考えを発表するよう促す。
- 主人公が上手に折れなかったから鶴を返してほしいと伝えた場面とお祈りをしていないことを正直に伝えた場面の主人公の気持ちの違いに気付けるように、2つの場面での主人公のすっきりした気持ちの程度を問いかける。
- 自分を偽らずに正直に生活することについて多面的・多角的に考えられるように、メーターを用いて、主人公の心のすっきりしている程度を表すよう促す。
- 自分を偽ると後ろめたさを感じることに気付けるように、お祈りをしていないことを正直に伝えなかった場合の、その後の主人公の心のすっきりしている程度を問いかける。
- 自分を偽らずに正直に生活することのよさについての理解を深められるように、正直に伝えることで送れる生活を問いかける。

評価の視点

自分を偽らずに正直に生活することのよさについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。

<発言・学習プリント>

- よりよい自己の生き方を実現しようとする思いを明確にできるように、振り返りの視点を提示し、理由を学習プリントに記述するよう促す。
- これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてたことを賞賛する。

指導計画（全1時間）

ね ら い	主人公が鶴を折る時にお祈りをしなかったことを正直に伝えた理由について話し合うことを通して、自分の間違いを認め正直に伝えることで明るく健やかに生活できることに気づき、自分を偽らずに正直に生活しようとする心情を養う。	
教材	千ばづる	
主題 構成	導入では、主人公がお祈りをせずに鶴を折ったことを正直に伝えたことについて、感想や疑問を話し合うことで、正直に伝えたことよさについての問題意識を高めることができる。展開では、主人公がお祈りをせずに鶴を折ったことを正直に伝えた理由に着目して考えることで、自分を偽らずに正直に生活することよさに気付くことができる。	
過程	学習活動	評価の視点<評価方法>
導入	○教材を読み、学習課題「主人公がお祈りをしていないことを正直に言ったのはどうしてだろう」をつかむ。	
展開	○学習課題の解決に向けて話し合う。	◇自分を偽らずに正直に生活することよさについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント>
終末	○これからの自己の生き方への思いや課題について考える。	
他の 教育 活動 との 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で、自らの間違いを正直に伝える場面 例：宿題を忘れたことを教師に伝える場面 友達とけんかをして仲直りする場面 物を壊してしまったことを伝える場面 	